

令和5年度

華学園栄養専門学校  
学校自己評価報告書

# 基準項目ごとの学校自己評価及び学校関係者評価・意見

## 基準1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題等	評価
<p><b>【1-1 理念・目的・育成人材像】</b>            教育理念、教育の目的は、本校の教育の骨子であり、これまで定めてきたものを受け継いでいる。            昨年度、栄養士科、管理栄養士科、各科の育成人材像とデュプロマポリシーを見直し、次のように定めた。</p> <p>1 各科の育成人材像            &lt;栄養士科&gt; (1) 栄養指導および給食の管理者としてふさわしい調理技術や献立作成力、コミュニケーション力を有する人材 (2) 調理もたくみな栄養士として多様なニーズに対応できる人材            &lt;管理栄養士科&gt; (1) 傷病者に対し最新の栄養情報に基づき科学的で適切な栄養指導ができる人材 (2) コミュニケーション力をもち、多職種と連携し、食を通じて保健・医療・福祉に貢献できる力を有する人材 (3) 調理技術と献立作成力を有し、特別な配慮を必要とする給食の管理運営ができる人材</p> <p>2 各科の「卒業認定・称号授与の方針 (デュプロマポリシー)」            所定のカリキュラムを履修し、必要な単位を修得して、卒業時に以下の能力や態度を身につけた学生に対して栄養士科は専門士、管理栄養士科は高度専門士の称号を授与する。            &lt;栄養士科&gt; (1) 栄養と健康に関する基本的知識を有しており、ライフステージごとの栄養指導を行うことができる。(2) 給食管理に必要な調理、献立作成、衛生管理の知識及び技術をもち、対象者に応じた給食の提供ができる。            &lt;管理栄養士科&gt; (1) 栄養と健康に関する基本的知識に加え、傷病者に対する栄養ケア・マネジメントの技術を有している。(2) 給食管理に必要な調理、献立作成、衛生管理の技術に加えて、給食の管理・運営を統括する能力を有している。(3) 科学的根拠に基づいた栄養指導や情報提供を行うことができる。</p> <p>今年度は、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを整理した。今後は、教育活動がこの3つのポリシーを柱に展開されているか。その結果、育成人材像にある人物を輩出できているか。PDSAサイクルを回して自己点検をしていくことが重要である。</p> <p>3 入学者受入れ方針 (アドミッション・ポリシー：AP)            &lt;栄養士科&gt; 「調理もたくみな栄養士」として、人々の命と健康に関わることで、社会に貢献したいとする心を大切にしたいと考え、以下の要件を満たす学生を受け入れます。            AP1 食べることに調理することが大好きで、食と健康との関係を知りたいとする意欲をもつ人。 AP2 学ぶことに前向きな姿勢・意欲をもつ人。 AP3 おいしさや健康を考えた食事を提供し、食を通じて人々の生活の質の向上に貢献したいとする気持ちをもつ人。 AP4 何事にも真摯な態度、誠実な姿勢で取り組み、面倒見の良い華学園に共感できる素直さをもつ人            &lt;管理栄養士科&gt; 管理栄養士の役割が広がっている社会にあって、食と栄養のプロフェッショナルとして社会に貢献したいとする意欲に富んだ人材を育てたいと考え、以下の要件を満たす学生を受け入れます。            AP1 食べることに調理することが大好きで、おいしい食事、健康を考えた食事に興味・関心をもつ人。            AP2 高等学校以下で学ぶ基本的な知識をもち、学ぶことに前向きな姿勢・態度をもつ人。 AP3 食や健康に関する知識や社会的問題に興味をもち、そのことを学び、自らを発展させたいとする気持ちをもつ人。 AP4 医療・福祉・保健・食育などの分野で、食を通じて人々の生活の質の向上に貢献したいとする気持ちをもつ人。 AP5 何事にも真摯な態度、誠実な姿勢で取り組み、面倒見の良い華学園に共感できる素直さをもつ人</p> <p>4 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー：CP)            &lt;栄養士科&gt; 以下の科目を中心に2年間の学修を進め、「調理もたくみな栄養士」を目指す。            CP1 栄養士の役割を理解し、使命感・倫理観を培うための科目を配置している。 CP2 「調理もたくみな栄養士」としての知識・技術を高める実習を配置している。 CP3 給食管理に必要な調理、献立作成、衛生管理の知識と技術を高める科目を配置している。 CP4 4つの専門コースごとに目標に合わせた学びを深める科目を配置している。 CP5 ライフステージごとの栄養指導を行うための栄養と健康に関する基本的知識を高める科目を配置している。 CP6 学んだ栄養学の知識と技術を統合し、実践力をつけるため校外実習を実施する。</p>	<p>4</p>

<p>&lt;管理栄養士科&gt;以下の科目を中心に4年間の学修を進め、実践力のある管理栄養士を目指す。</p> <p>CP1 管理栄養士の役割を理解し、使命感・倫理観を培うための科目、一人ひとりが目指す管理栄養士像を育む科目を配置している。 CP2 栄養学の学修に必要なとする化学、生物学、情報の基礎的事項を学ぶ科目、内容を豊かにする語学、社会学などを学ぶ科目を配置している。 CP3 社会と環境の視点および人体の構造や機能の視点から、栄養・食品と健康に関する基本的知識、専門的知識を身に付ける科目を配置している。 CP4 生活習慣病や各種疾病に関する栄養指導から傷病者の栄養ケア・マネジメントの手法を学修し、チーム医療の一員として役割を果たすための実習、演習科目を配置している。 CP5 給食管理に必要な調理、献立作成、衛生管理の技術を身に付け、給食の管理・運営を統括する能力を育む科目を配置している。 CP6 3年次に配置される臨地実習では、現場ならではの課題の発見、解決を通して、適切な栄養マネジメントに必要なとされる専門的知識と技術を統合させ、実践力をつけます。実習前には、課題研究と発表で臨地実習の学修効果を高め、その後には、実習の報告会と実習のまとめの作成で、実習で得られたものを確実なものとする。 CP7 4年次では、管理栄養士国家試験に向けたロードマップの基で、全員受験と全員合格を目指す。</p>	
--	--

## 基準2 学校運営

総括と課題等	評価
<p><b>【2-2 運営方針】</b>            育成人材像や3つのポリシーに沿ったカリキュラムや授業が編成され、授業実施に向けて設備投資や人材確保がなされなければならない。学生数の減少で困難さもあるが、教育活動の基盤の整備として進めていく必要がある。</p>	3
<p><b>【2-3 事業計画】</b>            学園本部と学校の幹部職員で決定された方針のもと、各部、各担当が年度計画を作成し、予算案を提出する。予算の執行に関してはその都度、稟議書を作成しチェックする体制がとられている。</p>	3
<p><b>【2-4 運営組織】</b>            運営組織は明確になっており、法人部門と学校部門の権限と職務分掌がなされている。年度当初に学園本部と学校の組織図が示され、あわせて各部署の役割分担が示されている。</p>	3
<p><b>【2-5 人事・給与制度】</b>            人事や賃金での処遇に関しては、半年毎の人事考課により個人が目標設定し、その達成度合いを自己評価し、その後、直属上司による個人面談で評価を行っている。それを学園本部が総合的に相対評価している。</p>	3
<p><b>【2-6 意思決定システム】</b>            基本的な日常の事項は各部・係の責任者が決定し、栄養士科・管理栄養士科全体の総括的な運営は、学校長の決裁のもと、各学科長、教育部と教務課で行っている。            多大な設備投資や人材雇用については、稟議制度に則り承認を得るシステムがとられている。</p>	3
<p><b>【2-7 情報システム】</b>            平成30年度より、部署を横断するようにシステムが構築され、学生募集から在学中・卒業後までの一元管理が行われている。今年度機器の更新を行った。            華学園は、平成28年に学園創立70周年を期に示された「中期三ヵ年計画」が終了を迎え、コロナ禍で策定が中断していた「新中期三ヵ年計画」の検討が進められている。また、別に単年度の事業計画が立案（重点目標）され執行されている。            今後は栄養士科・管理栄養士科ともに、いかに定員確保を行うのが重要な課題である。            本校の魅力は教職員の面倒見のよさ、確固とした実践力の育成にある。着実に教育活動を行うことで、各方面からの信頼をゆるぎないものとし、それを学生募集に繋げていかなければならない。</p>	3

### 基準3 教育活動

総括と課題等	評価
<p><b>【3-8 目標の設定】</b>            本校は、厚生労働省より認可された栄養士養成施設及び管理栄養士養成施設であるため、栄養士免許取得及び管理栄養士国家試験受験資格を取得がそのまま目標である。            建学の精神である「社会で貢献できる職業人の育成」及び職業実践専門課程の実施に基づき、就職先の関連企業が求める人材の育成について、教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会の意見を、より実践的な職業教育実施に向け役立てている。            栄養士・管理栄養士分野の就職率 100%、中途退学者 0%、管理栄養士科においては管理栄養士国家試験合格率 90%以上の達成、栄養士科においては栄養士実力認定試験「認定 A」取得 70%以上を目標としながら、献立作成、調理技術・給食業務の実践力が身に付くよう教育を行っている。            さらに、今年度はカリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを学科ごとに定め、育成人材像に向けて3つのポリシーを明確にした。</p>	4
<p><b>【3-9 教育の方法・評価等】</b>            カリキュラム及びその教科目は、栄養士法(栄養士養成施設指導要領、管理栄養士養成施設指導要領)で定められているものと学科ごとの育成人材像に沿ったもので構成されている。            今年度は、栄養士科新カリキュラム運用初年度で、新規科目「栄養士概論」の実施、令和6年度展開のスポーツ栄養コースの準備を行った。あわせて、管理栄養士科のカリキュラムの改訂の方針を定めた。            教育内容については、学生による授業評価を行い、担当教員、科目、クラス毎に評価結果を集計し、その結果を担当教員にフィードバックし、教育活動の資料として活用し、授業の資質向上を図っている。</p>	4
<p><b>【3-10 成績評価・単位認定等】</b>            成績評価、単位認定の基準は明確であり、単位の認定にあたっては、進級判定会議または卒業判定会議で協議し、最終的に校長の承認を経て決定している。近年、学生の学力が下がっており、単位修得のための指導に多くの労力を割いている。</p>	3
<p><b>【3-11 資格・免許取得の指導体制】</b>            資格取得は栄養士法に基づくものであり、カリキュラムは明確で教育内容もそれに準拠している。            栄養士免許は卒業とともに与えられるが、管理栄養士免許は国家試験の合格が必要であり、そのため、国家試験対策委員会を組織し、受験までの「ロードマップ」に従って管理栄養士国家試験合格に向けた対策授業や模擬試験(学内作成・業者実施)、個別指導を実施して対応している。なお、栄養士科を卒業した者は、実務経験3年以上で、管理栄養士国家試験受験資格を有するので、受験を予定している卒業生対象の受験対策講習会を実施している。</p>	3
<p><b>【3-12 教員・教員組織】</b>            教員数及び教員資格は、専門学校として専修学校設置基準に基づくと共に、栄養士養成施設及び管理栄養士養成施設として栄養士法施行規則などに基づいて配置している。教員組織も栄養士養成施設指導要領、管理栄養士養成施設指導要領を遵守し、教育目標等の区分に従った教員配置に努めている。            教員資質の向上のため、教育研究を分野に分かれて実施し、一部私学財団の研究助成を受けるとともに、学会での発表を行った。</p>	4

### 基準4 学修成果

総括と課題等	評価
<p><b>【4-13 就職率】</b>            就職率の向上は、職業実践専門課程の認定を受ける専門学校としての重要な目的と使命である。            本校では就職率 100%を目標に、就職担当、クラス担任が協同で学生指導にあたり、就職希望者に対する就職率は高い数字を維持している。また、栄養士又は管理栄養士の資格を活かした就職率についても、100%達成を目指している。今年度卒業生の内定率は、現在まで、栄養士科 95%、管理栄養士科 88%となっている。</p>	4
<p><b>【4-14 資格・免許の取得率】</b>            栄養士免許は、栄養士科、管理栄養士科ともに、学則で定める規定のカリキュラムを修了した者に授与されるが、栄養士としての知識の定着を図る手段として栄養士科2年生、管理栄養士科3年生の全員に栄養士実力認定試験を受験させている。栄養士科では「認定 A」取得率 70%以上、「認定 C」0%</p>	4

<p>の目標を掲げているが、令和5年度は栄養士科「認定A」53.6%、「認定C」0%、管理栄養士科「認定A」92.1%であった。</p> <p>さらに管理栄養士科を修了した者には、管理栄養士国家試験の受験資格が与えられ、卒業後の国家試験に臨んでいる。本校は合格率90%以上を目標に試験対策をすすめている。学習が遅れている学生に対し、強化ゼミナール、個別の学習会などを実施し、卒業次の学生の全員受験と高い合格率を達成している。令和4年度こそ合格率は70.8%であったが、過去5年間平均で91.1%の合格率を達成している。</p> <p><b>【4-15 卒業生の社会的評価】</b></p> <p>本校生の就職における強みは、実践力にあり、このことは就職先で高い評価を受けている。</p> <p>この3年間コロナ禍にあっても校外臨地実習を現場に行き完全実施している。このことは、実施事業所の協力がなしではできないことであり、就職して現場に立ったとき、スムーズに業務にあたることができていると就職先からも評価をいただいている。これは、校内での充実した実習と校外での実習の成果と考える。教員・助手の人数の減少に伴い、十分な指導が困難になっているが、このことは、今後も続けていきたいところである。</p>	3
--	---

## 基準5 学生支援

総括と課題等	評価
<p>少子化による大学全入時代を迎え、専門学校に於ける「学生支援」は、学生確保の上からも充実させる事が不可欠である。</p> <p>本校では3校合同の学生係を設け、就職支援や学生生活の支援を組織的に取り組んでいる。</p>	3
<p><b>【5-16 就職等進路】</b></p> <p>就職支援、就職指導は、就職担当教員、担任との連携により就職活動年間計画を作成し、実施するとともに、新規開拓による就職先の拡張、学生への教育指導の充実を図っている。専門人材育成訓練生は、キャリアコンサルタントによる就職支援を行っており、意識の醸成など成果をあげている。</p>	
<p><b>【5-17 中途退学への対応】</b></p> <p>中途退学への対応は、学力及びメンタル面のサポートを、学科長や担任、副担任をはじめ全教職員で取り組んでいるが、教員にゆとりがなく十分とは言い難い。メンタル面で問題を抱え、中退につながる学生が増加しており、専門のカウンセラーによる支援など何らかの対応が必要と思われる。</p>	3
<p><b>【5-18 学生相談】</b></p> <p>教員はカウンセリングも数多く経験し学生の相談に適切に対応している。さらに、教員では対処が難しい場合は校医との相談の機会を設けるなど、支援にあたっている。</p>	2
<p><b>【5-19 学生生活】</b></p> <p>学生の経済的支援として、学費の分納制度(2期)を設け支払いの負担を軽減させている。奨学金は公の制度を有効利用している。また、本校独自の学納金減免制度は好評である。委託寮利用者対象の制度を設け、利用者の経済的負担の軽減に寄与している。</p> <p>毎年4月に定期健康診断を実施し、有所見者には再検査を受けさせ、個別に対応している。また、学校医による健康相談等に応じている。また、体調不良者のため一時休息できる保健室を設置している。</p> <p>課外では、運動会、そば打ち体験、テーブルマナー研修などの行事や部活動を設けており、学校生活に彩を添えている。</p>	3
<p><b>【5-20 保護者との連携】</b></p> <p>学業・生活指導の上から、保護者との連携は重要であり、内容によっては保護者との面談を実施する。その際、担任のみの対応ではなく学生指導担当、学科長、教務課長、必要時応じて学校長もその対応に加わっている。</p>	3
<p><b>【5-21 卒業生・社会人】</b></p> <p>栄養士科の卒業生に卒業後教育として、管理栄養士国家試験に関する通信講座、対策講座を行っている。管理栄養士通信講座は、基礎コース・演習コース(3年間)を実施しており、3年間のフォローアップは他校には無い特徴で、受験者増、合格者増に繋がっている。</p> <p>また、ホームページでは卒業生のフィールドを設け、情報を卒業生に提供している。</p> <p>専門人材育成訓練生をはじめ、社会人の入学者が増加し、学習から遠ざかっていた時間が長い者の入学者が多くなっている。入学前にプレ授業(化、生、数)を希望者に実施しているが、一層の充実が求められる。</p>	3

## 基準6 教育環境

総括と課題等	評価
<p>【6-22 施設・設備等】 厚生労働省認可の栄養士・管理栄養士養成専門学校であるため、栄養士法により施設・設備は規定されている。また本校の特徴として実践力をつけるためにそれ以上の充実した設備を備えている。しかし、今後、施設設備の更新を必要としている箇所が少なくない。予算上の制約もあり思うように進んでいない。</p> <p>図書室を設け、司書も常駐している。専門書及び学術雑誌を配置し、年間計画の中で専門分野に応じて希望する蔵書等を購入、配架している。</p>	2
<p>【6-23 校外学習、インターンシップ等】 インターンシップは教育課程上に位置づけられており、受け入れ先企業との協議のもと計画的に実施している。その評価については所定の評価表に基準を定め実施している。</p>	4
<p>【6-24 防災・安全管理】 感染症対策として、校舎入口にアルコール消毒スプレー、自動検温器を設置するとともに、学生の健康管理表を作成し、学生は登校日に必ず記入することで健康管理に対する意識の向上を図っている。</p> <p>防災・防火体制については、組織体制を整備し年2回訓練を行っている。学生には防災セットを用意している。その他、災害対応マニュアルの作成、自動体外式除細動器、緊急地震速報の設置、火災保険への加入等、防災に対する体制は整備されている。</p> <p>薬品等の危険物の管理は、専用の有鍵キャビネットで保管し、管理している。行政の指導を受け、適切に実施している。実習・実験時に使用する設備・機器等の取扱いについて、使用及び事故防止のためのマニュアルを整備している。</p>	3

## 基準7 学生の募集と受入れ

総括と課題等	評価
<p>【7-25 学生募集活動】 学生募集・受け入れは、学園広報と教務部とが連携協力し実施、オープンキャンパス、学校説明会、社会人相談会、夜間オープンキャンパス等を実施し、あわせてパンフレットや募集要項の作成、高校ガイダンス、学校見学、ホームページの整備を行っている。昨今の入学志願者の傾向から情報収集の手段としてスマートフォン等の活用が顕著であるため、SNS、ホームページからの積極的な教育情報の発信を行っている。</p> <p>出願は、高校ガイダンス、会場ガイダンス、オープンキャンパス参加者がほとんどである。オープンキャンパスの内容を多様化し、複数回参加により出願率の向上を図った。また、個別相談を実施して学校の内容の理解を図り、入学後のミスマッチが無いよう取り組み、1年次の退学率低減に繋げている。さらに、11月以降では、個別の見学や相談に応じることで出願に結びつけている。</p> <p>管理栄養士国家試験の5年間平均91.1%の合格率、高い就職実績の他、栄養士科の調理も巧みな栄養士を目指すコンセプトも学生募集につながっている。栄養士科卒業生への管理栄養士通信講座は、廉価で手厚い支援として受験生にはいい印象を与えている。</p> <p>近年、社会人がリカレント教育を経て栄養士となるケースが多くなっている。ハローワークにおもむき、就職相談、訓練相談の際の資料として本校パンフレットを提供するなどしている。</p> <p>令和5年度より東京都の専門人材育成訓練の受託申請を行い、栄養士科30名の訓練生の育成訓練を受託し、25名の訓練生が入学した。今年度も引き続き受託申請を行い、20名の訓練生の育成訓練を受託した。これに、15名の応募者があり、全員が訓練生として合格している。受託申請を行う学校が増え、預かる訓練生の人数が減少しているが、学生確保の一つの手段になっている。</p>	3
<p>【7-26 入学選考】 入学選抜は推薦枠の基準が明確化され、募集要項で明示している。また、入学面接は複数対応で行い面接記録も保存されている。</p>	3
<p>【7-27 学納金】 学納金の算定にあたっては、社会状況に鑑みて算定を行い、最終的に理事会の承認を経て決定している。</p> <p>入学辞退者への返還金については、文部科学省の趣旨に基づいて募集要項に明示し、適切に取り扱っている。</p>	4

## 基準 8 財 務

総括と課題等	評価
<p>【8-28 財務基盤】            充実した専門教育の実施に必要な教職員、施設設備等を確保して、学校運営を行っており、借入金も無く設備投資等も全て自己資金で行うなど、中長期的な学校の財務基盤は安定している。</p>	4
<p>【8-29 予算・収支計画】            主要な財務数値についても各種会計資料等を有効に活用し、推移を正確に把握しており、年度予算の執行についても妥当であると認識している。</p>	3
<p>【8-30 監査】            財務の監査については、本学園顧問の公認会計士の指導により適正な決算書類を作成して、監事の監査に臨んでいるが、今後は外部監査の検討も必要である。</p>	4
<p>【8-31 財務情報の公開】            財務情報の公開については、保護者等関係者の理解と支持を得るためにも極めて重要であり、閲覧申請書による財務書類の公開だけでなく、学校法人会計基準に準拠した形式によりホームページ等インターネットを活用し行なっている。</p>	4

## 基準 9 法令等の遵守

総括と課題等	評価
<p>【9-32 法令等の遵守】            各種法令の遵守は学園の根幹に係わる事項であり、本校学則をはじめとして明確に方針化されている。日常業務において法令からの逸脱等なきよう、職員会議をはじめとする会議等での自由な議論が展開されている。また、新年度には前年度の総括をふまえ、各教職員からの改善のための提案が出され、予算的措置も含め、単に法令遵守にとどまることなく、「よりよい学園の構築」のために改善が図られてきた。しかし、学生数の減少に伴い、財政の健全性の維持との関係が難しくなっている。</p>	3
<p>【9-33 個人情報保護】            個人情報の保護に関しては、「学校法人華学園個人情報取扱規程」に基づき、学生の個人情報に関する書類（本人調査書等）を教務部で管理している。また、学籍簿や成績表などの電子データは、アクセス制限を加えた専用コンピュータで管理している。その他関係書類は施錠できる棚や机での管理を行っているが、機密性が高い集中的な管理システムの導入が必要である。</p>	3
<p>【9-34 学校評価】            学校教育法施行規則第 66 条、第 67 条及び第 68 条により実施する本校の自己評価は、「学校法人華学園自己評価の実施、運営規程」に基づいて行い、その内容は同じ規程に基づく学校関係者評価委員会により精査（外部評価）されている。</p>	4
<p>【9-35 教育情報の公開】            自己評価、及び学校関係者評価委員会による評価結果は、ホームページにて公開されている。</p>	4

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題等	評価
<p>【10-36 社会貢献・地域貢献】            厚生労働省は糖尿病等生活習慣病とその予備軍の減少を念頭に対策を打ち出している。そのひとつに特定健診・特定保健指導があり、健康の増進、生活習慣病予防の場面での栄養士・管理栄養士の活躍が期待されている。本校では建学の精神として「華学園の教育を通じて時代の求める職業人を育成し社会の発展に寄与する事」とうたい、社会の要請に応えうる栄養士・管理栄養士の養成に努めている。</p> <p>地域貢献の一環として、地元台東区教育委員会の求めに応じ、区内小学生への食育の授業として「だし」の体験授業及び台東区清掃リサイクル課におけるエコクッキング講座に教員を派遣している。また、台東区福祉協議会主催の「台東区ファミリー・サポート・センター提供会員講習会」に講師として教員を派遣している。</p>	4
<p>【10-37 ボランティア活動】            学生による学園周辺のボランティア清掃を学生指導の一環として実施している。今後、地元と連携した取り組みの機会を設けるようにしていくことが考えられる。</p> <p>本校は、学校教育活動そのものが社会貢献ととらえることができるが、さらに、地元地域及び地域住民への貢献活動を行っている。その取り組みを、一層充実させたいと考えている。</p>	3

## 学校関係者評価委員からの主なご意見・対応等

ご意見	対応
<p><b>&lt;基準2 学校運営&gt;</b>            学校運営が組織的に行なわれており、各部署で適切な役割と実践がされていると思う。今後、その努力が学生募集にも結び付くと思う。</p> <p>2-2            理念・目的に近づけるよう充実した運営のためにも 人員確保(職員)等、環境をさらに整えて欲しい。</p> <p>2-7            学生募集には、もっと明確なアピールが必要。華学園の強みを出していけるように方向性を固めて欲しい。</p>	<p>・令和6年度からスタートする学園の新中期計画では、「学生募集の強化」が最重要課題として位置付けられている。栄養校では、この課題に組織的に取り組み、各部署で知恵を絞って適切な解決策を見出して入学者数増に繋がりたいと考えている。</p> <p>・人材確保については、学生数の減少(令和6年度入学者数は、5年度に比べて学園全体で約60名減)に伴う収支バランスを考慮しつつ対応を図る。教育環境(施設設備等)の改善については、&lt;基準6&gt;の「対応」に記載の通り。</p> <p>・上述の通り、「学生募集の強化」は最重要課題である。本校の魅力として、これまで「教職員の面倒見の良さ」と「確固とした実践力の育成」を掲げてきたが、前者については、今では当たり前のことで、これが本校の魅力として募集に繋がっているのかは疑問。専門学校にも「教育の質保証」が求められている昨今、具体的な教育内容に言及したアピールが必要と考えている。学生情報の更なる分析を含めて、今後対応したい。</p>
<p><b>&lt;基準3 教育活動&gt;</b>            真摯な教育活動が実践、実行されていると思い、大変評価したい。</p> <p>3-9            (栄養士科2年次の)「スポーツ栄養コース」は新しいことを取り入れて良いと思う。</p> <p>3-11            (卒業生対象の管理栄養士国家試験受験に係る通信講座と対策講座については)卒業生特権を感じられるリーズナブルな価格で対応して頂きたい。これも後ほどの宣伝になると思う。</p>	<p>・令和5年度に明確に示した3つのポリシーに基づき、栄養士又は管理栄養士に必要な実践的かつ専門的な能力を育成する職業教育に今後も努める。</p> <p>・スポーツ栄養コースは、令和5年度にスタートした栄養士科の新カリキュラムで、2年次に配置されている。すなわち、令和6年度より実施される教科であるため、同年度中に課題の把握に努め、内容の改善を図る。</p> <p>・光熱費高騰や教室使用料など、現実に見合う価格に設定するため、令和6年度に値上げしたが、その幅は、卒業生対象ということで、できる限り抑えた。令和6年度の受講者は、25名(前年度は22名)。なお、受講者数を更に増加させるために、今後も在校時より管理栄養士資格取得への意識付け及びサポート体制の紹介を積極的に行う。</p>



#### <基準4 学修成果>

学修活動の成果として、貴校生が社会的に高い評価を得ていることは、学園全本の努力の賜と思う。

4-14

先生方の熱心な指導により、(管理栄養士国家試験)合格者が多いのだと思う。(4年次の)個別学習会にもっと各教科ごとの専任がいれば、100%目指せると思う。

#### <基準5 学生支援>

学園全体が一体となって一人ひとりの生徒を大切にしていることが良く理解出来た。

5-21

(栄養士科の卒業生に卒業教育を実施していることに対して)「卒業生は本当に感謝していると思う。これからもフォローアップを続けて頂ければと思う。

#### <基準6 教育環境>

6-22

必要な設備は積極的に対応頂きたい。

・就職先企業の人事担当者、業務責任者、社会で活躍する卒業生などを招聘し、栄養士や管理栄養士の業務内容や仕事のやりがい、専門職としての使命など、早期より意識付けを行っていることが、就職先での高い評価に繋がっていると思われる。

・国試合格率100%達成は、4年次の個別指導の強化だけでは困難。低学年から苦手な分野・教科をつくらせない教育を行うことが第一に必要。そのために、業者模試等の結果を全国平均と比較・分析し、本校の学生の弱点を見出し補強に努める。次いで、成績低位者への指導を担当できる常勤教員を校内で育成するなどして、4年次の放課後個別指導の強化を図る。併せて、国試対策ロードマップについても見直しが必要と考えている。なお、各教科に専任教員を配置することは、教員数及び学生数に応じて、国から高額な補助金が支給される大学と異なり、それが望めない現状の専門学校では難しい。

・本学園では、3校合同の学生係を設け、組織的に就職活動や学生生活の支援に取り組んでいる。就職活動では、企業と学生とのミスマッチを防ぐことは非常に重要と考えており、両学科ともに、早期から職業理解につながる取り組みを、今後も継続して行う。

・栄養士科の卒業生に対して実施している管理栄養士国家試験に係る通信講座、対策講座は好評で、令和6年度は25名が受講している。このような卒業教育は、今後も継続して行う。

・令和5年度には栄養校に係る7箇所の施設設備(他に、共有施設7箇所)が改善された。施設設備・機器類の適宜改修等を行うことは、在校生の満足度を上げることに繋がり、学生募集活動にも影響するので、今後も快適な学習環境の構築推進に努める。

**<基準 7 学生の募集と受入れ>**

学生募集活動は年々、厳しくなっているが、学園一体となって取り組んでいると思う。全体で取り組むことが大切と感じる。

・広報との連携強化、魅力あるオープンキャンパス(OC)の構築、平日の個別見学・夜間 OC への対応、Web の活用、ホームページの充実、編入学の推進、ハローワークを介する社会人の受入推進等を実施予定。OC では、実施時間を短縮した中で学園の生の情報や魅力を如何に伝えるのが重要である為、在校生にも協力を願う。また、保護者の参加が年々増えていることを鑑みて、保護者の心を確実に掴むためのメッセージを、よりわかりやすく伝えるよう努めたいと考えている。